

令和5年度 第5回 消費生活eモニターアンケート集計

1 調査趣旨

◎SDGs（持続可能な開発目標）について

SDGsとは、貧困、紛争、テロ、気候変動など、様々な社会的課題の解決に向けて、「誰一人取り残さない」をキーワードに2030年までに達成すべき17のゴールが定められた持続可能な開発目標のことで、2015年9月の国連サミットで採択されたものです。国や企業などの取り組みに限定されるものではなく、私たちひとりひとりの行動が求められています。

そこで今回は、川崎市のSDGsの取組を知っていただくとともに、SDGsに関する消費者の実態と意識を調査し、今後の行政の参考資料とするため、アンケートを実施いたします。

2 調査事項 「SDGs（持続可能な開発目標）について」

3 調査対象 令和6年度消費生活eモニター 45名
(回答者数36名・回答率80%)

4 調査方法 市ホームページの回答フォームによる

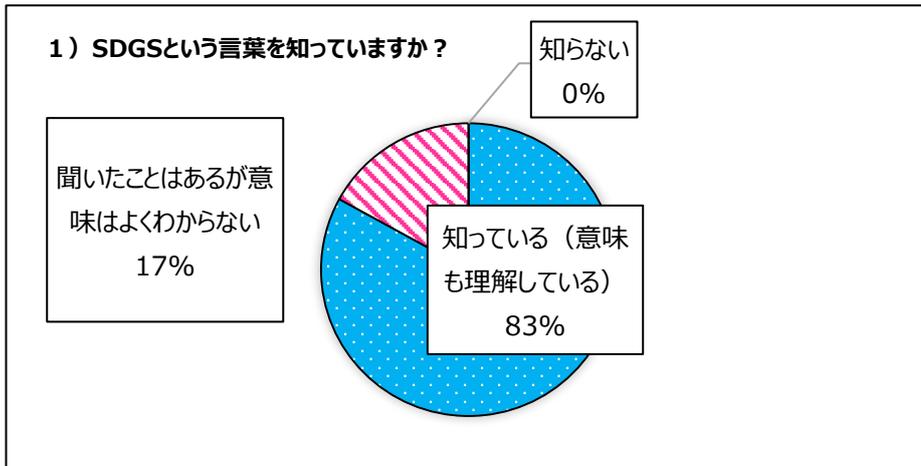
- 集計結果について、四捨五入の結果や複数回答の集計によるため、合計が100%とならない場合がございます。
- 調査結果中の「回答者数」は「調査対象者」から「未提出者」を除いた数としました。
- 回答は一部抜粋。



SDGs（持続可能な開発目標）について

《SDGs 全般について》

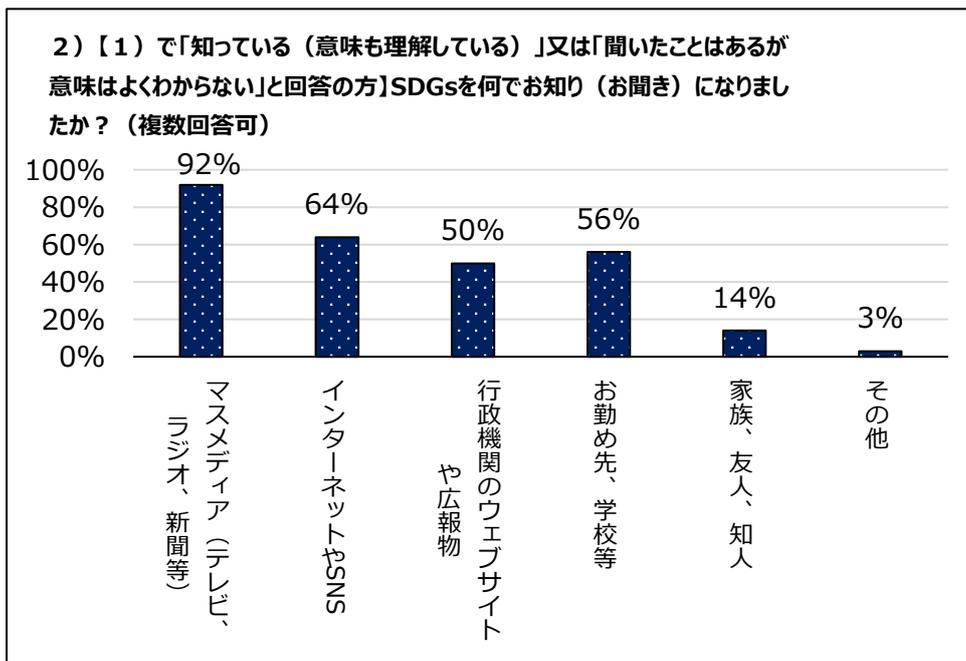
1) SDGs という言葉を知っていますか？



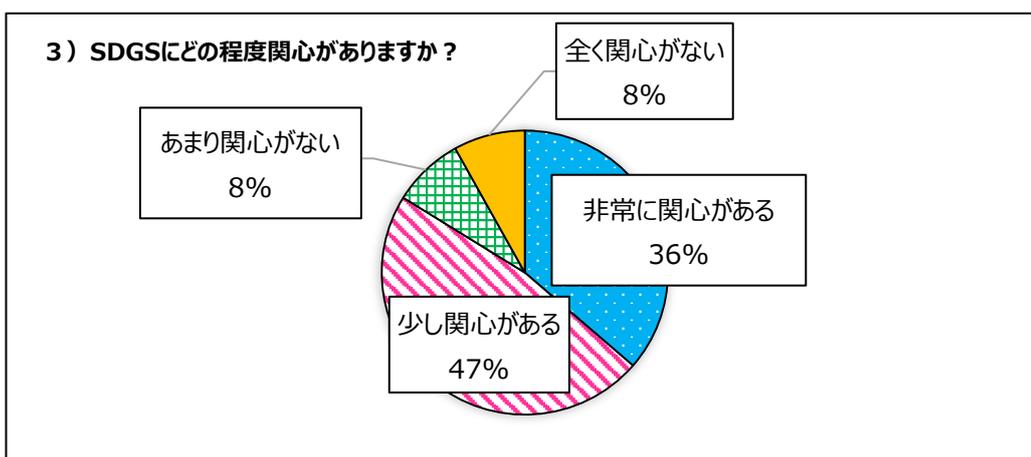
2) 【1）で「知っている（意味も理解している）」又は「聞いたことはあるが意味はよくわからない」と回答の方】SDGs を何でお知り（お聞き）になりましたか？（複数回答可）

その他の内容

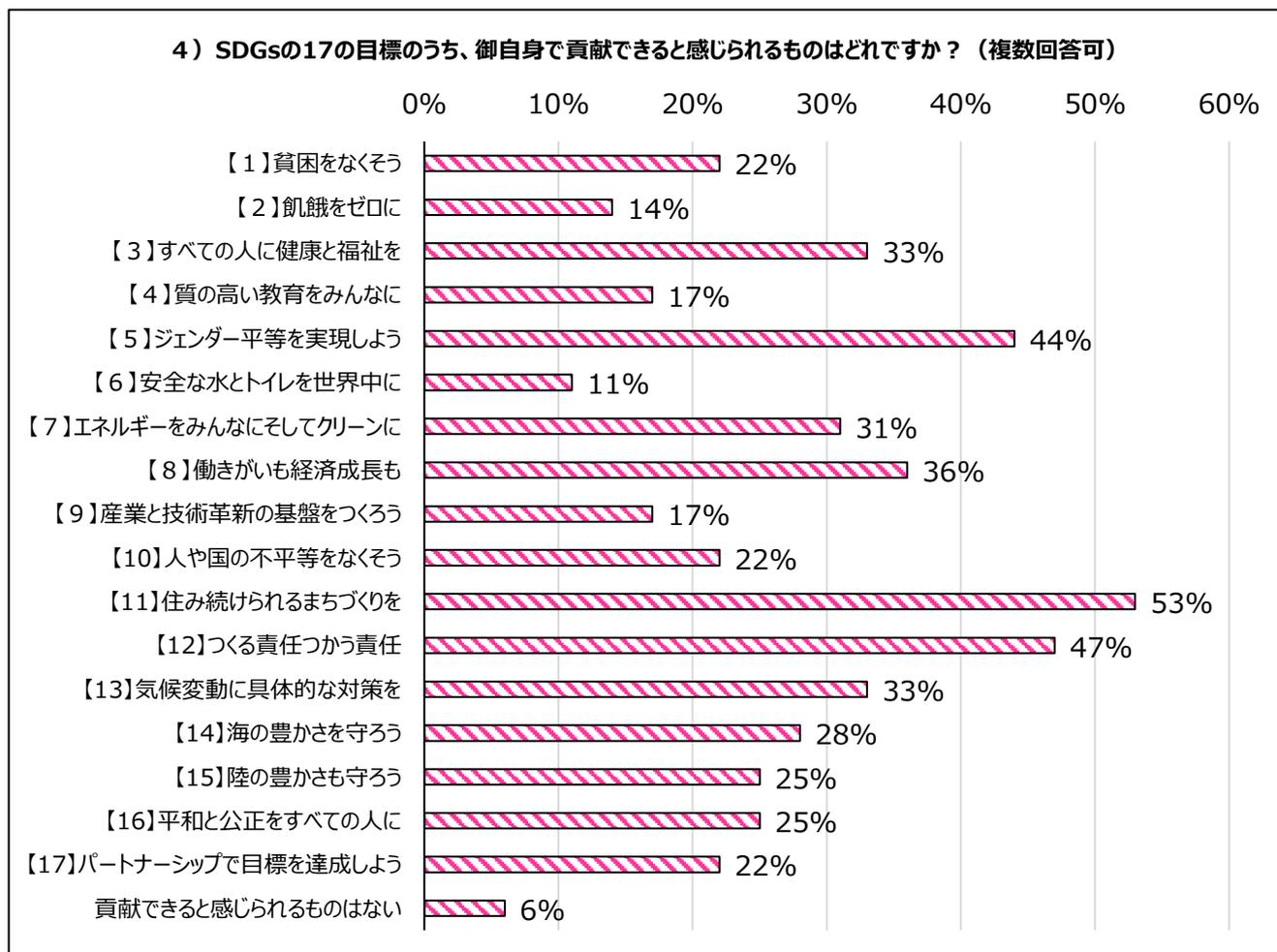
- ・仕事が一部関連している。



3) SDGs にどの程度関心がありますか？



4) SDGsの17の目標のうち、御自身で貢献できると感じられるものはどれですか？（複数回答可）

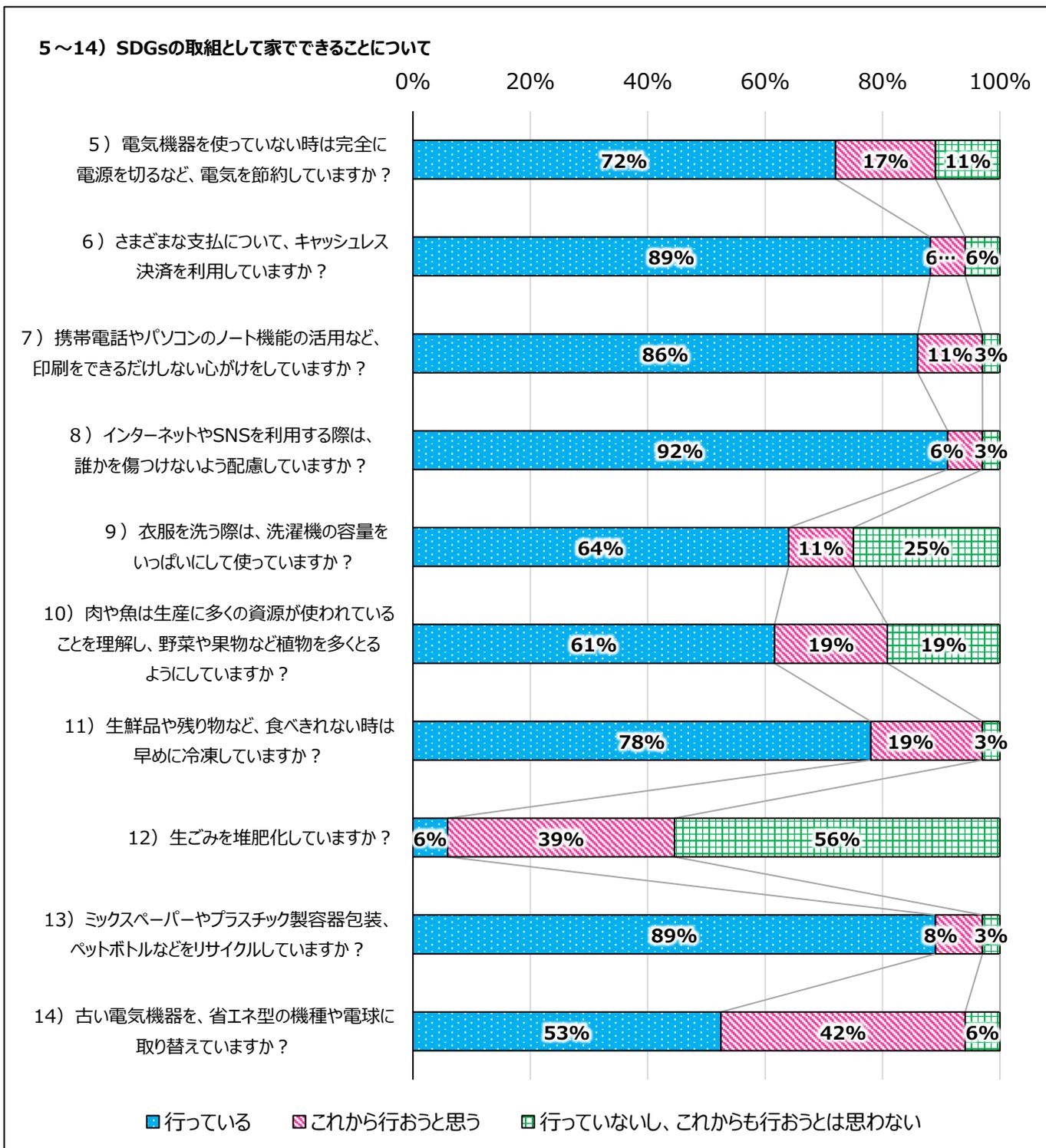


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



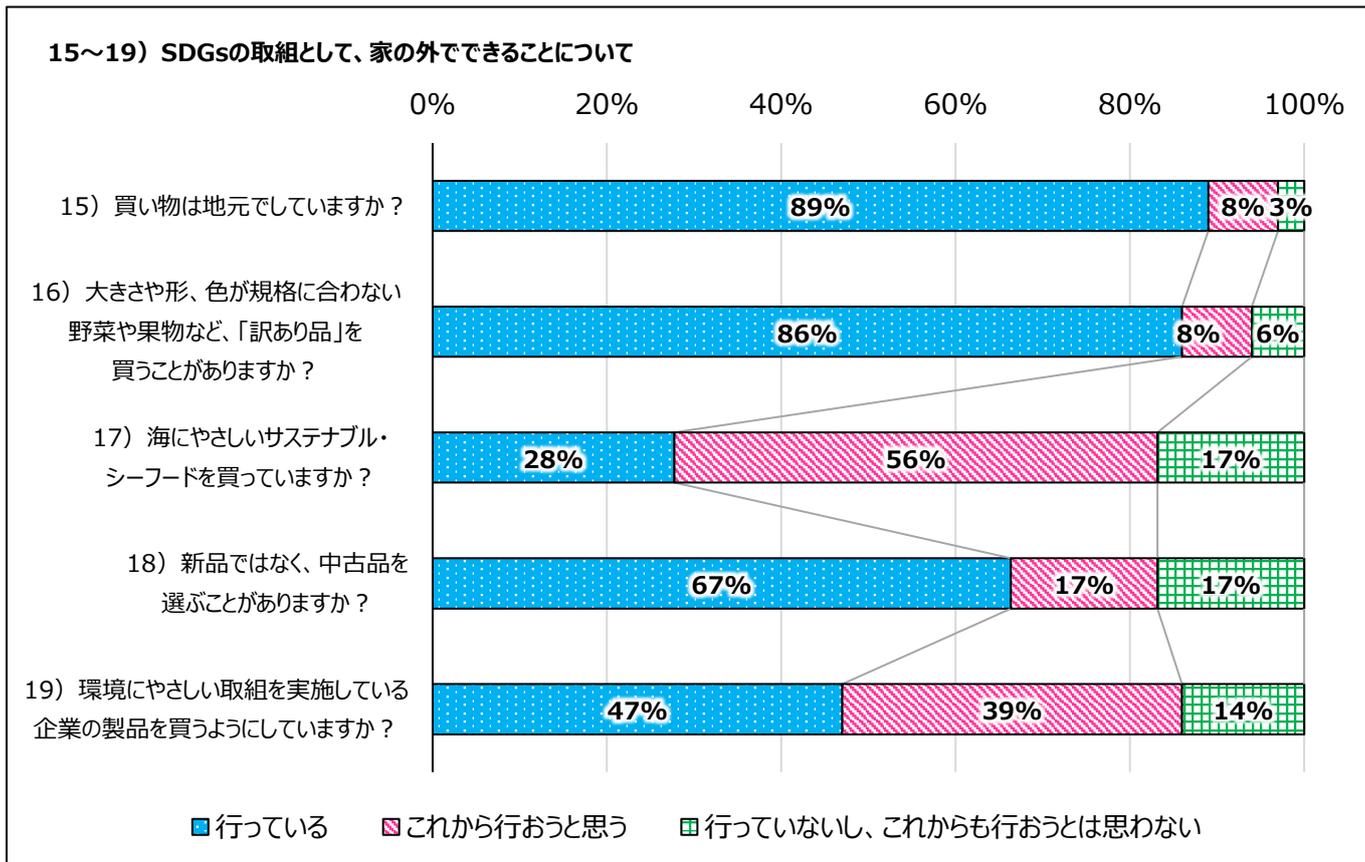
《SDGs の取組として家でできることについて》

5～14) 次のことを行っていますか？



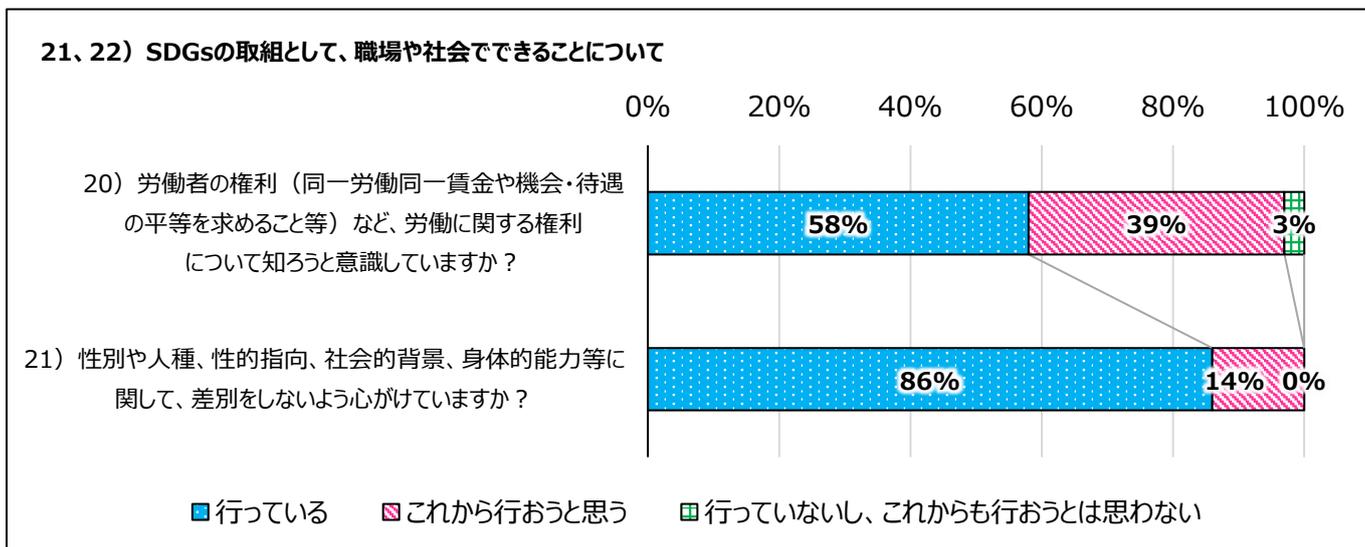
《SDGs の取組として、家の外でできることについて》

15～19) 次のことを行っていますか？



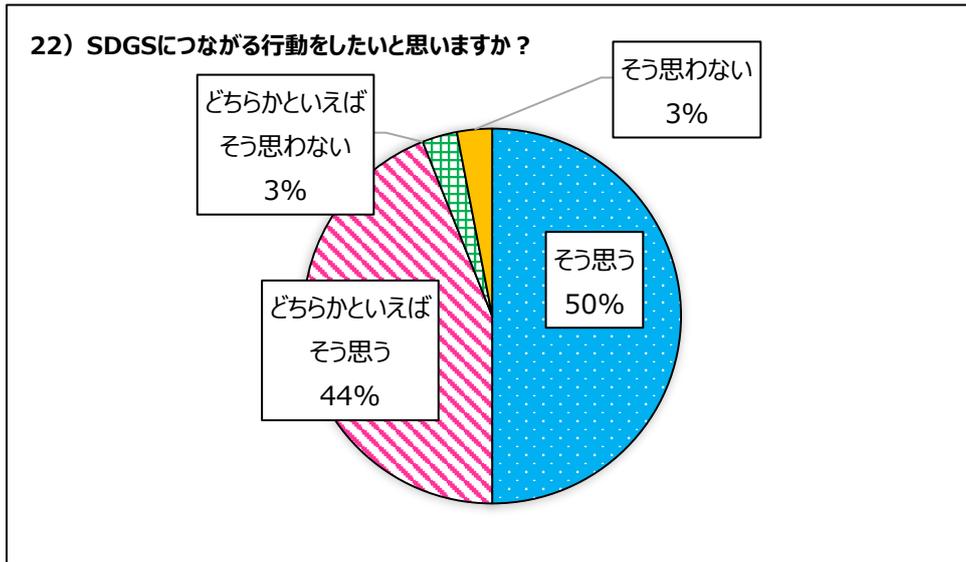
《SDGs の取組として、職場や社会でできることについて》

20、21) 次のことを行っていますか？

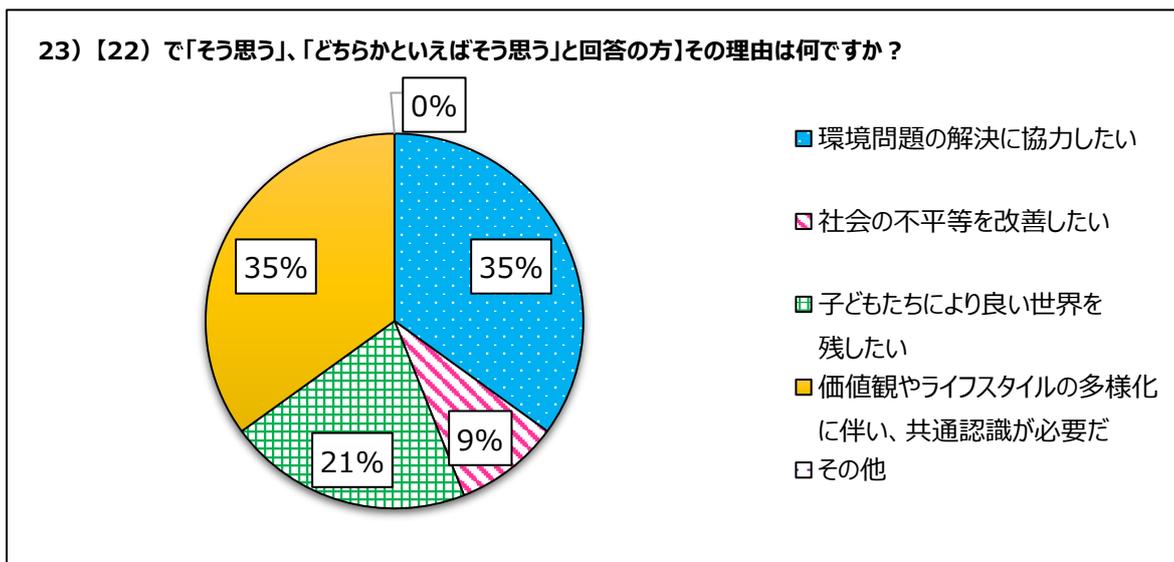


《SDGsにつながる行動について》

22) SDGsにつながる行動をしたいと思えますか？



23) 【22) で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答の方】その理由は何ですか？
もっとも近いものをお選びください。



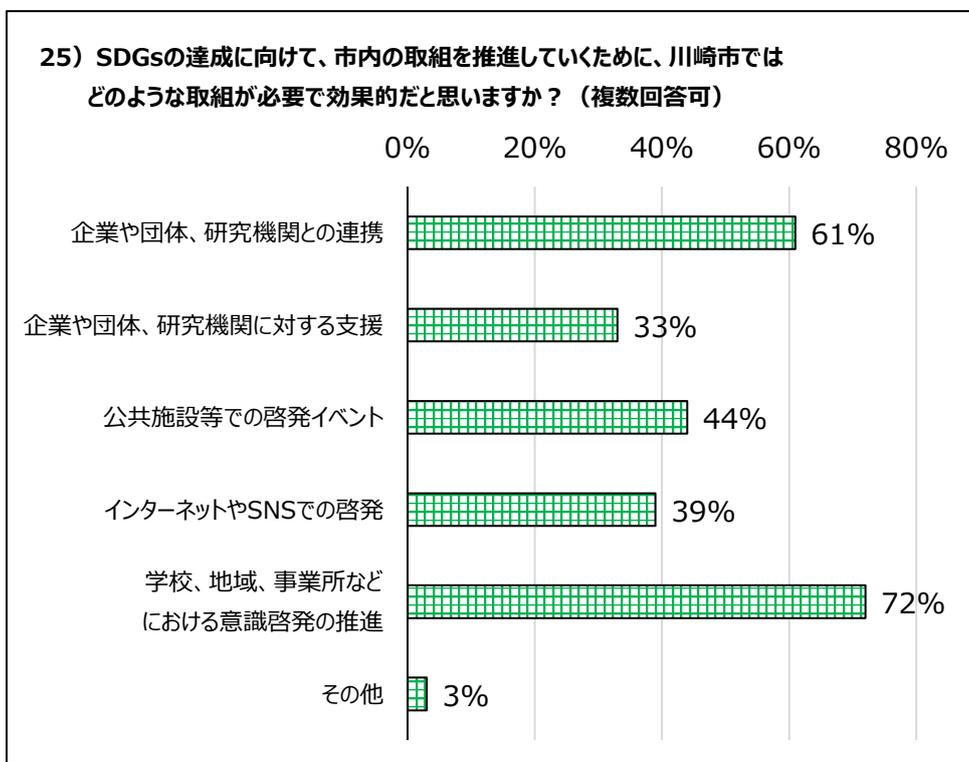
24) 【22) で「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」と回答の方】その理由は何ですか？
もっとも近いものをお選びください。

⇒該当者が少ないため、人数で表示（計2名）

SDGsの目標・ターゲットに興味がない	1名
ハードルが高い	0名
自分にできないことがない（少ない）	0名
個人のひとつひとつの行動が問題解決につながると思わない	0名
何をしたらよいか分からない	0名
その他 国連が決めたSDGs指標を、川崎市に当てはまるのは無理があるから	1名

《SDGsの達成に向けた川崎市の取組について》

25) SDGsの達成に向けて、市内の取組を推進していくために、川崎市ではどのような取組が必要で効果的だと思いますか？（複数回答可）



その他の内容

- ・市で取り組む必要を感じない。



KAWASAKI
SDGs



川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

《SDGsの取組について》

26) SDGsの取組について御意見を自由に御記入ください。(200文字以内)

《自由回答》

■ SDGsの必要性和理解促進

- ・具体的なデータの提示: SDGsの活動の必要性について、具体的なデータを用いた説明を行うべきだと考える。これにより、活動の意義をより多くの人に理解してもらうことができる。
- ・広報の重要性: 内容を知っている人が少なく、必要性も認知されていないため、分かりやすい広報を行い、身近に感じてもらう工夫が必要だと感じる。国や公共団体、企業、学校などが協力し、多様な分野からの広報を行うべきだと思う。

■ 個人の取り組みと意識

- 日常生活での実践：節電や節水、食べ物の賞味期限管理など、日常生活の中でできることを心掛けるべきだと考える。これにより、地球の資源や環境を守ることに繋がると感じる。
- 小さな努力の重要性：一人一人の小さな努力が無駄ではないとし、持続可能な開発目標に向けた意識を持つことが求められるべきだと感じる。

■ 地域活動とコミュニティのつながり

- 地域イベントの開催：SDGsに関連するイベントを地域で開催し、人々がつながる機会を増やすべきだと考える。町会と新しく転居してきた人が交流することで、目標に近づく一歩になると信じる。
- 専門職の活用：例えば、小学校の校庭でラジオ体操を行い、出欠を確認することで、高齢者や外国人、子供の状態を確認し、問題があれば保健士や民生委員が相談対応できる場を設けるべきだと感じる。

■ 環境保護と持続可能な社会

- 環境保護活動の重要性：環境保護活動を行っている企業や個人の努力を市民に伝えるべきだと考える。人工衛星写真に見る北極圏の氷の減少など、具体的な事例を示すことが重要だと感じる。
- 社会問題解決への貢献：SDGsに貢献するスタートアップ企業への補助金や、地元農産物の駅前スーパーでの販売促進など、具体的な施策が必要だと感じる。

■ 経済的な視点

- 市民の可処分所得の増加：市で行うべきSDGsは、税の徴収を減らし、市民の可処分所得を増やすことが重要だと考える。これにより、市民の持続可能な経済活動に寄与するべきだと感じる。
- 制度的な支援の必要性：個人としてSDGsに取り組むことが難しいと感じる人が多く、制度的な支援が必要だと思う。区単位で担当する部署を設けることで、活動が広がると考える。

■ 課題と懸念

- 温暖化や環境問題への懸念：現在の温暖化対策や環境問題に対する懸念が多く、具体的な行動が求められるべきだと感じる。トランプ大統領のバリ条約離脱や、現アメリカ大統領の発言に対する失望が示されている。
- 生活の現実：給料の上昇がない中での生活の厳しさや、公共交通の利用に関する課題が指摘されるべきだと考える。自家用車をやめて公共交通を利用することが推奨されるが、現実的な問題が多いと感じる。

